

9月 高2 レベル記述模試 (2020年9月27日実施)

## 採点基準 英語

## 3 学年別問題

3B 3点×5=15点

## 【基準】

各完答 大文字・小文字は不問。スペルミス・語形ミスは1箇所でもあれば不可(各-3点)。

(1)	It	takes	me
(2)	tend	to	judge
(3)	the	news	that
(4)	few	young	people
	only	few	youngsters
(5)	much [far/still/even]	faster [quicker]	than

3C 10点×2=20点

## 【基準】

下記の区分に分けて配点。区分の配点を超えて減点しない。

軽微なスペルミスは-1点。その他の語句レベルの誤りは1箇所につき-2点。

(1)

区分・解答例	配点	備考
職場に行かないと	5点	if they do not go to the[their] office(s) ・「職場」に company, firm は不可 (-2点)
人々は十分な運動ができません	5点	people do not[cannot] get enough exercise(s)

(2)

区分・解答例	配点	備考
在宅勤務者 (teleworkers) が～することは困難です	5点	it is difficult for teleworkers to ~ ・「～することは…だ」の文構造ができていないものはこの区分0点 (-5点)。
仕事を家庭生活から切り離す	5点	separate (their) work from (their) home lives ・「仕事」に task は不可 (-2点)

4

(2) (5点)

(2) 下線部 (b)this data はどのようなデータか, 30 字以内の日本語で説明せよ。句読点も字数に含める。

(解答例 1) 従業員が5つの絵文字で自分の感情を評価したデータ。(25 字)

(解答例 2) 従業員が自分の感情に対して下した評価を示すデータ。(25 字)

## 【設問箇所】

The researchers then compared (b)this data with each worker's work schedule and sales performance.

「次に研究者らは(b)このデータを各従業員の仕事のスケジュールや販売実績と比較した」

## 【解答の根拠となる文】

For six months, the researchers asked **the workers to rate their feelings** every week by using emails.

「6 カ月間, 研究者らは毎週電子メールを使用して, 従業員に自分の感情を評価するように依頼した」

## 【基準】

次の①, ②を必須項目とし, 部分的な誤りは該当の点数を減点。

※全体の趣旨として違うことを答えているものは, 部分的に項目が含まれていても 0 点 (−5 点)。

※字数制限 (30 字以内) を守らないものも 0 点 (−5 点)。

① (2 点) **the workers** (従業員) に相当する内容

② (3 点) **rate their feelings** に相当する内容

※rate に「レーティングする」は−1 点。

※their feelings の their 「自分の, 彼らの」がないものは−1 点。

必須項目以外で, 本文の内容に反する誤りは−2 点。

## (3) (5点)

(3) 下線部 (c)this が指す内容を 30 字以内の日本語で答えよ。句読点も字数に含める。

(解答例) 雇用主が勤務中の従業員の幸せを考慮すること。(22 字)

## 【設問箇所】

They believe (c)this will benefit employers in the long run.

「(c)このことは長い目で見れば雇用主に利益をもたらすと、彼ら (=研究者ら) は考えている」

## 【解答の根拠となる文】

For this reason, the researchers recommend that **employers consider the happiness of employees while at work.**

「このような理由から、雇用主が勤務中の従業員の幸せを考慮することを研究者らは推奨している」

## 【基準】

次の①, ②, ③を必須項目とし, 部分的な誤りは該当の点数を減点。

※全体の趣旨として違うことを答えているものは, 部分的に項目が含まれていても 0 点 (-5 点)。

※また, 字数制限 (30 字以内) を守らないものも 0 点 (-5 点)。

※文末表現は不問。

① (1 点) employers (雇用主) に相当する内容

② (3 点) consider the happiness of employees に相当する内容

※consider の誤りは-1 点。

※happiness of employees の誤りは-2 点。

③ (1 点) while at work (勤務中の [に]) に相当する内容

必須項目以外で, 本文の内容に反する誤りは-2 点。

5

(1) (4点)

(1) 下線部(a)について、図書館に行くことはどのような点で母親と店に行くこととは違っていたのか。20字以内の日本語で述べよ。句読点も字数に含める。

(解答例1) 欲しいものを手に入れることができた点。(19字)

(解答例2) 図書館では、母と争いになることがない点。(20字)

## 【設問箇所】

(a) Going to the library wasn't like going to a store with my mother, which guaranteed a war between what I desired and what she was willing to buy me.

「(a)図書館に行くのは母と店に行くのとは違っていた。というのも、店に行くと必ず私が欲しいものと母が私に買いたいものの中で争いになったからだ」

## 【解答の根拠となる文】

In the library, I could have anything I wanted.

「図書館では、私は欲しいものを何でも手に入れることができた」

## 【基準】

※下の(例1~3)のいずれかに相当する内容があれば満点。そうでなければ0点(−4点)。

ただし、部分的な表現に難がある場合は−2点。

※字数制限(20字以内)を守らないものは0点(−4点)。

(例1) 「欲しいものを手に入れることができた」

(例2) 「読みたい本 [好きな本] を借りられた [読めた]」

(例3) 「母と争わずに済んだ」

必須内容以外で、本文の内容に反する誤りは−2点。

## (2) (5点)

(2) 下線部(b)を和訳せよ。

(解答例1) もし彼女がどんな職業でも選ぶことができたならば、司書になることを選んでいただろう。

(解答例2) 何か仕事を選べたとすれば、私は図書館員になることを選んだでしょう。

## 【下線部】

On the way home, my mother always mentioned that, (b)if she could have chosen any profession, she would have chosen to be a librarian, and the car would be silent for a moment as we both considered what an amazing thing that would have been.

●次の区分に分けて配点。区分を超えて減点はしない。

	区分	配点	備考
①	if she could have chosen ... she would have chosen もし彼女が…選ぶことができたならば [選べたとすれば], …選んでいた [選んだ] だろう。	3点	・仮定法過去完了（過去時制で訳出）がわかっていないものは不可（-3点）。
②	any profession どんな職業でも/何か仕事を	1点	・any（どんな、何か、何でも）の意味がないものは-1点。
③	to be a librarian 司書 [図書館員] になること	1点	
※（解答例2）のように直説法にして訳したのも認める。			

## (4) 空所補充 (3点満点)

【解答】 books

【基準】 部分点なし（スペルミス、語形ミスも不可）

## (6) 語順整序 (3点満点) [完答]

【解答】 that - made

【基準】 部分点なし（スペルミス、語形ミスも不可）

## (7) 空所補充 (3点満点)

【解答】 mother

【基準】 部分点なし（スペルミス、語形ミスも不可）